

# IoTで融資判断

## 碧南の企業が新サービス



IoTを活用した金融機関向けサービスについて説明する木村哲也社長(愛知県碧南市)

## 稼働や来客状況、センサーで把握

ものづくり現場のIoT(モノのインターネット)技術を金融機関の融資判断に活用してもらおうと通信技術応用事業を手掛ける「アイスマートテクノロジー」(愛知県碧南市)が専用サービスを考案した。企業の生産動向などを把握することで事業性評価に役立てる。不動産など従来の担保に過度に依存しない手法として活用が期待される。

同社は、トヨタ自動車を主な取引先とする部品メーカー旭鉄工(同)の子会社で、二〇一六年に設立。生産設備に汎用品のセンサーや受発信機を付けて生産状況を把握する手ごろなIoTシステムを提供している。設備の稼働状況や生産にかかる所要時間を逐次把握し、不具合の多い設備や作業を効率的に改善できると評判で、約二百社の中小

企業などに納入した。これまでの技術を応用して年内にも始めようとしているサービスは、金融機関の融資先であるメーカーの生産設備や、飲食店の自動ドアなどにセンサーや受発信機を付け、金融機関側で状況を把握。設備の稼働状況や来客状況を正確につかむことにより、融資時の判断材料とする。

融資を受ける側にとっても、経営改善に向けた支援が受けられやすくなるというメリットがあり、経営課題への対策も早期に打つことが可能。現在、県内外の複数の金融機関がこうしたシステムに興味を示しているという。

木村哲也社長は「企業活動に関わる膨大で、重要な情報は金融機関の外に蓄積されている状況。このサービスで企業の活動を『見える化』することで、融資判断の精度を上げることができる」と話している。

(酒井博章)

中部からニュース